栃木県がん対策推進計画（４期計画）ロジックモデル

参考資料２

（C）施策

	個別施策	指標	計画策定時	現状値
1	たばこによる健康影響の普及啓発と働く世代への禁煙支援	20歳以上の者の喫煙率	17.6% (2022年)	14.2% (2024年)
2	効果的な受動喫煙対策の推進	受動喫煙の機会を有する者の割合（職場・家庭・飲食）	職場　20.0% 家庭　4.3% 飲食店 13.1% (2022年)	職場　8.8% 家庭　6.5% 飲食店　9.9% (2024年)
3	生活習慣（運動、食事、飲酒）の改善について働く世代への効果的な普及啓発	食塩・野菜摂取量、果物摂取量100ｇ未満の者の割合、運動習慣者の割合、リスク飲酒者の割合	食塩9.7g/日 野菜 292.8g/日 果物63.5% 運動習慣者 男 20-64<22.0%> 65-<55.1%> 女 20-64<20.3%> 65-<45.1%> リスク飲酒者(20歳-) 男15.5%　女9.4% (2022年)	食塩10.0g/日 野菜 274.6g/日 果物78.9% 運動習慣者 男 20-64<29.8%> 65-<50.7%> 女 20-64<20.5%> 65-<40.9%> リスク飲酒者(20歳-) 男14.7%　女8.8% (2024年)

	個別施策	指標	計画策定時	現状値
4	肝炎に関する正しい知識の普及啓発	肝炎ウイルス検査受検率（国保加入者40歳検診対象者）	13.8%(B型) 14.0%(C型)　(2021年)	15.1%(B型) 15.0%(C型)　(2024年)
5	肝炎ウイルス検査陽性者へのフォローアップ・治療の推進			
6	子宮頸がん及びHPVワクチン予防接種の県民への理解と啓発	HPVワクチン実施率（定期接種１回目）	38.7%　(2021年)	36.8%　(2025年)

	個別施策	指標	計画策定時	現状値
7	市町、企業等と連携した効果的な普及啓発	がん検診・精検受診率（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん）	胃がん　39.5% 大腸がん　45.7% 肺がん　52.4% 乳がん　49.9% 子宮頸がん43.1% (2022年)	胃がん　44.9% 大腸がん　52.0% 肺がん　58.5% 乳がん　54.6% 子宮頸がん47.0% (2025年)
8	受診勧奨や検診実施等の効果的な取組事例の市町との情報共有			
9	がん検診従事者への研修、検診実施体制等の評価及び結果の公表、がん登録情報の活用		胃がん　86.2% 大腸がん　68.9% 肺がん　85.1% 乳がん　91.9% 子宮頸がん86.5% (2020年)	胃がん　83.7% 大腸がん　65.3% 肺がん　83.7% 乳がん　93.2% 子宮頸がん87.0% (2022年)
10	個別検診実施機関の事業評価への取組の促進	個別検診実施機関に関する事業計画の実施市町数	0 市町　(2022年)	0 市町　(2024年)

	個別施策	指標	計画策定時	現状値
11	医療安全、チーム医療、医療の質、リハビリ等の取組への支援	がん拠点病院の診療実績 ①院内がん登録数 ②手術件数 ③薬物療法患者数 ④放射線治療患者数 ⑤緩和ケアチーム新規患者数 ⑥医療圏診療実績	①12,049件 ② 9,353件 ③19,039人 ④ 3,083人 ⑤ 1,128人 ⑥－ (2021年)	①13,046件 ② 9,085件 ③17,149人 ④ 3,173人 ⑤ 1,355人 ⑥－ (2024年)
12	地域の実情に応じたがん医療の均てん化・集約化の取組への支援			
13	拠点病院と地域の医療機関等との役割分担と連携強化への支援			
14	各医療機関の医療技術を踏まえた医療提供体制の集約化の推進			
15	がんゲノム医療・小児・AYAがん医療、希少がん・難治性がん等の医療体制の整備	小児がん診療実績 ①年間入院患者延べ数 ②外来患者延べ数 ③他施設から受け入れた患者数 ④患者の紹介を受けた医療機関数 (2021年)	①196人 ②5,151人 ③38人 ④32機関 (2021年)	①352人 ②5,956人 ③61人 ④39機関 (2023年)
		希少がん症例数	177件　(2022年)	37件　(2023年)
16	がんの診断時から適切な緩和ケアを提供する体制整備の推進	拠点病院等の緩和ケアチーム新規患者数	1,128人　(2021年)	1,355人　(2024年)
17	苦痛の把握、主治医と緩和ケアチームの連携強化、緩和ケアの質の評価・改善等への取組の支援	身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると思う患者の割合等	37.3%　(2018年)	36.4%　(2023年)
18	地域課題への取組による切れ目のない緩和ケアの提供体制の整備	①緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数 ②自施設でがん診療を受けている緩和ケア外来患者の年間新規診療患者数 ③地域の施設が開催する他職種連携カンファレンスに参加した年間回数	①55人 ②625人 ③38回 (2021年)	①103人 ②790人 ③51回 (2024年)
19	拠点病院等と地域の医療機関との連携体制の整備			
20	緩和ケア研修会の開催による円滑な地域連携の推進			
21	人材の育成・確保	緩和ケア研修会修了者数推計（拠点病院等以外の施設の医師・歯科医師）	300人　(2022年)	494人　(2025年)
		県内のがん等に関する医療従事者数（がん治療認定医等）	236人　(2022年)	224人　(2025年)

	個別施策	指標	計画策定時	現状値
22	がん相談支援センターの利用促進	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	92.2%　(2018年)	64.8%　(2023年)
		がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数	5,103件　(2021年)	6,130件　(2024年)
23	相談支援体制の充実	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	121人　(2021年)	113人　(2024年)
		ピアサポーター数	R6から登録	11人
		患者サロン開催数	28回　(2021年)	91回　(2024年)
24	がん患者等が働きやすい職場環境づくり	がんの治療等のために通院しながら働き続けられる環境にあると思う県民の割合	25.0%　(2022年)	25.0%　(2022年)
		がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	40.1%　(2018年)	51.5%　(2023年)
25	就労支援体制の充実	拠点病院等のがん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	401件　(2021年)	766件　(2024年)
26	自殺リスクに対する相談体制の整備やがんの正しい理解への普及啓発	精神心理的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合（再掲）	65.1%　(2018年)	69.9%　(2023年)
		がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じる割合	16.8%　(2018年)	20.3%　(2023年)
27	小児・AYA世代のがん患者支援の充実	妊孕性温存療法・温存後生殖補助医療費助成件数	19件　(2022年)	39件　(2025年)
		アピアランスケア助成件数	849件　(2022年)	1,148件　(2025年)
		在宅ターミナルケア実施市町数・助成人数	4 市・15人月　(2022)年	9 市・37人月　(2025年)
		妊孕性温存療法実施指定医療機関数	3 機関　(2022年)	5 機関　(2025年)
		ピアサポーター数（再掲）	R6から登録	11人
		患者サロン開催数（再掲）	28回　(2021年)	91回　(2024年)
28	小児・AYA世代のがん医療提供体制の充実	小児がん診療実績（再掲） ①年間入院患者延べ数 ②外来患者延べ数 ③他施設から受け入れた患者数 ④患者の紹介を受けた医療機関数	①196人 ②5,151人 ③38人 ④32機関 (2021年)	①352人 ②5,956人 ③61人 ④39機関 (2023年)
29	小児・AYA世代のがん患者の保育環境・教育環境の充実	入院中の小・中・高校生に対する学習支援延べ件数	106件　(2022年)	127件　(2025年)
30	高齢がん患者とその家族等の療養生活を支えるための体制整備	人生会議（ACP）に係る認知度	21.4%　(2022年)	19.9%　(2025年)
31	学校におけるがん教育を推進するための環境整備	がんについての認知度（治療法等）	69.8%　(2022年)	69.8%　(2022年)

（B）個別目標（目的を達成するためにクリアすべきステップ、ゴール：中間アウトカム）

			計画策定時	現状値	目標値
Ⅰ		がんの予防及び早期発見ができている			
1	指標	がん年齢調整罹患率（人口10万対）	全がん　377.5 胃がん　41.9 大腸がん　57.6 肝がん　12.1 肺がん　39.5 乳がん　100.0 子宮がん　33.9 (2019年)	全がん　367.0 胃　33.7 大腸　55.4 肝　10.6 肺　35.9 乳　103.6 子宮　36.5 (2023年)	減少 (2029年)
2	指標	早期がん割合（全国がん登録・進展度・総合） ※上皮内と限局の割合	全がん　52.9% (2019年)	全がん　53.6% (2021年)	上昇 (2029年)
Ⅱ		がん医療が充実している			
1	指標	がんの診断・治療全体に対するがん患者の総合的評価平均点 ※10点を満点とする評価	8.0点 (2018年)	8.1点 (2023年)	上昇 (2029年)
2	指標	納得のいく治療を選択できたと思うがん患者の割合	75.8% (2018年)	- % (2023年)	上昇 (2029年)
3	指標	がん拠点病院の診療実績 ①院内がん登録数 ②手術件数 ③薬物療法患者数 ④放射線治療患者数 ⑤緩和ケアチーム新規患者数 ⑥医療圏診療実績	①12,049件 ② 9,353件 ③19,039人 ④ 3,083人 ⑤ 1,128人 ⑥－ (2021年)	①13,046件 ② 9,085件 ③17,149人 ④ 3,173人 ⑤ 1,355人 ⑥－ (2024年)	
Ⅲ		がん患者やその家族を支える環境が整っている			
1	指標	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	42.7% (2018年)	49.6% (2023年)	上昇 (2029年)
2	指標	がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがないと感じているがん患者の割合	74.0% (2018年)	74.1% (2023年)	上昇 (2029年)

（A）目的（あるべき姿；分野アウトカム）

			計画策定時	現状値	目標値
①		がんによる死亡率の減少			
1	指標	がんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）	全がん　67.9 胃がん　7.7 大腸がん 9.7 肝がん　3.7 肺がん 11.3 乳がん　9.5 子宮がん 5.9 (2021年)	全がん 65.8 胃がん　6.0 大腸がん10.8 肝がん　3.3 肺がん　9.9 乳がん　10.0 子宮がん 4.6 (2024年)	減少 (2029年)
2	指標	計画策定時：５年相対生存率 →現状値：５年純生存率	全がん 63.9% 胃がん 62.7% 大腸がん 68.0% 肝がん 33.0% 肺がん 32.6% 乳がん 93.6% 子宮がん 79.3% (2009-2011年)	全がん　－% 胃　61.3% 大腸　66.8% 肝　31.8% 肺　31.7% 乳　90.0% 子宮　77.2% (2012-2015年)	上昇 (2029年)
②		すべてのがん患者の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上			
1	指標	身体的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合	60.8% (2018年)	65.4% (2023年)	上昇 (2029年)
2	指標	精神心理的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合	65.1% (2018年)	69.9% (2023年)	上昇 (2029年)
③		がんになっても安心して暮らすことができる社会の構築			
1	指標	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	81.0% (2018年)	77.3% (2023年)	上昇 (2029年)